







局面打開のための
『ビジョン策定会議』。大人たちは
大人たちは難しい顔で議を戦せて



その言葉は、鋭利な刃物となって
リーダーたちの胸に突き刺さった。



もはやメンツや利益の話ではない。
これは、次世代への生存競争だ。
バラバラだった1,000人のベクトルが
『若者が逃げ出さない街を作る』という
一方向へ収束し始めた。



1,000人の熱意は、
「43」もの具体的な
プロジェクト案と
なって結実した。
会場は希望に満ち溢れていた。



だが、立ち回らざる非情な現実。
彼らはそれを『自然淘汰』と呼んだ。
責任者がいない
夢物語はいらん。
次は?
資金も人も
足りない。本物
だけを残す
責任者がいない
夢物語はいらん。
次は?



審査の場は修羅場となった。
怒り、絶望、そして排除。



「...選ばれなかった人たちの想いも、
想いも絶対に無駄にはしない」

生き残ったのは、
泥をかぶる覚悟(コミットメント)
を持った『13の事業』だけだった。







民間に行政の何が分かる？ 公平性が第一だ。



